

2022-4-3

# ふじさわ・九条の会ニュース

No.68



発行人 ふじさわ・九条の会 事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP (ホームページ) <http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>



検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。

## 私たちは全ての戦争に反対する。(吉塚晴夫)

ロシアがウクライナに戦争を仕掛けた。この間、アメリカと NATO が、20年間も無意味な殺戮を行ってきたアフガニスタンから、やっと撤退した。その前のイラク、グルジア、チェチェン、湾岸、ベトナムなど戦争は繰り返してきた。だからこそ私たちは今までも、今もこれからも、微力であり無力かも知れないが、NO WAR と言いつける。武力で平和は作れない。軍事に軍事で対抗するのは戦争の抑止とはならない。国家や民族の大義に殉じるのではなく、何よりも命を大切にすること、生き延びることが大事だ。だから即時の停戦を求める。誰が首相、大統領になっても、戦争が出来ないようにする、それが憲法9条の力だ。

### 戦争と原発

ロシア軍はチェルノブイリなど原発を占拠した。稼働している複数の原発をもつ国に、戦争を仕掛けることがどれ程危険で無謀なことか、図らずも示された。翻って我が国はどうか。日本は海岸線に沿って56もの原発を配置している。これを放置して軍備を重ねても無意味である。「厳しさを増す安全保障環境に対応」するなら、先ず全ての原発を直ちに廃炉にするべきだ。

戦争は最大の環境破壊である。人の命を失わせないために、人の住むそして多くの生物植物の生きる大地を破壊しないために、即時に停戦を求める。

### 戦争はプロパガンダ戦、情報戦である。

いま世論は「悪玉プーチン VS. 善の英雄ゼレンスキー」という方向に傾いている。メディア、SNS ともにゼレンスキーが圧倒しているが、そのまま信用するのは危険だ。現代の戦争には IT、宣伝広告会社が深く関与している。軍隊は情報統制を強化し、相手側が如何に残虐であるかを、宣伝技術を駆使して広報する。

米議会でのゼレンスキーの演説。最後にバイデンに向かって「あなたは世界のリーダーになって欲しい。世界のリーダーは平和のリーダーだ。」という事を言った。そのバイデンは「プーチンは戦争犯罪人だ。」と発言した。ベトナム、アフガニスタン、イラク戦争を起こしてきたアメリカが言える事なのか。中南米へのアメリカの介入、チリのアジェンデ政権へのクーデター画策を忘れないことだ。何故アメリカ大統領は戦争犯罪を問われないのだろうか。「自由と民主主義を守れ」というスローガンの下、他国に戦争を仕掛けてきたのがアメリカだ。

EU、米はプーチンに強力な経済制裁を迅速に課した。一方でイスラエルはパレスチナガザに何度も(年中行事のように)侵攻しガザの子ども、女性、老人を殺している。だが世界はイスラエルを SWIFT から排除はせず、オリンピックから締め出しもしない。ゼレンスキーの声は世界に拡散するのに、パレスチナの人々の声は届かないのは何故なのか。そして今も殺戮が行われているミャンマー、世界から忘れられているイエメンの惨状はどうするのか。

### 核共有、敵基地攻撃能力保有を許さない。

この戦争に便乗して安倍晋三らが「核共有」を言い出し、敵基地攻撃能力は必要だ、非核三原則を見直せと主張している。将に火事場泥棒の所行であり、絶対に許してはならない。プーチンと27回も会談し、「同じ未来を見ている」はずの安倍晋三は、クレムリンに乗り込んで、何故停戦の直談判をしないのか。岸田政権はウクライナに防弾チョッキを送った。武器ではないという体裁で、防衛装備品を送り込み、既成事実を作り武器を送り込むことを警戒しなければならない。(2面に続く)

## ウクライナ避難民への受け入れを

### 全ての在留外国人に適用せよ。

政府はウクライナ避難民の受け入れを、長期の特定活動に変更する。滞在先を確保し就労、修学、日本語教育を提供する。賛成である。

所で各地の入管には、今も長期に収容拘束されている外国人がいる。ウィシュマサンダマリさんの死が象徴するように、何人ものクルド、アジア、アフリカなどの在留外国人が、入管施設内で自殺、病死、餓死している現状がある。ウクライナ避難民の受け入れを契機に、人権無視の日本入管制度を根本から改正することを求める。

### ロシア市民へのヘイトを許さない。

この戦争に便乗して、ロシアに関する何もかもを否定し排除する、異様な事が起きている。世界

的なロシア人指揮者を舞台から排除し、チャイコフスキーの楽曲を演目から外す。ロシア料理店に嫌がらせをする。在日のロシア人に憎悪を投げつける。札幌で予定していたロシア文学展は、嫌がらせや妨害を恐れて延期する。何という事か、日本の社会はここまで劣化したのか。

ドストエフスキー、トルストイ、チェーホフなど世界文学の目眩くような巨星たち。書店、出版社にロシア文学を出版販売するなどということになるのか。世界は一日にして異様な相貌を呈した。在日の韓国、朝鮮人へのヘイト行為を世界に広げた積もりなのか。恥ずべき事である。私たちは過去の歴史を十分に学ばなければならない。そして困窮した全ての人を迎え入れる、度量の広い日本であって欲しい。

## 〇〇〇〇〇 地域九条の会から 〇〇〇〇〇

### <武力侵攻が、戦争が、無差別攻撃が、日本国民の心に刺さる、行動につながる!> (六会・九条の会)

私たち「ふじさわ・九条の会」の会員は、いくつかの宣伝行動を長い間展開しています。

3月3日(木)の「9の日」宣伝では、イギリス人男性が近づいてきて「そのプレカ(NO WAR !と書いてある)を1枚いただけませんか？」と英語で。訳を聞くと、「自分の家の窓に貼りたいから」と。



2022. 2. 28(月)「抗議の火を絶やさない」スタンディング 藤沢駅南口2階

また、3月14日(月)の「抗議の火を絶やさない」スタンディングでは初めて「ウクライナ救済カンパ」の箱を置きました。通りがかりの女性・若い男性・高校生など1時間で20人ほどが協力、総額15000円以上にもなりました。こんなことは過去なかったのに、

プーチンによるウクライナ侵攻について、メディアが毎日その実相を伝えています。その悲惨さは目を覆うばかりです。藤沢駅の通行人も今までにない捉え方をしているのが、これらの行動から手に取るようにわかります。21世紀に、こんな戦争が起きていることに心を痛めています。やはり、武器を持つてはいけない、戦争をしてはいけない。そう、「9条の種子を世界に飛ばそう!」

### <ロシアはウクライナ侵略をやめ、ただちに撤退しろ!> (湘南大庭九条の会)

ロシアのプーチン政権がウクライナへの侵略を強行しました。軍事行動はウクライナ全土に広がり、女性や子どもを含む民間人に多数の犠牲者が出ています。

ミサイルを400発以上も打ち込み、軍事施設だけでなく民間住宅や石油タンク・テレビ塔・市庁舎・避難所など、手当たり次第に破壊しています。

今回のロシアの軍事行動は「主権の尊重」「領土の保全」「武力行使の禁止」などを義務づけた国連憲



章に違反することは明白です。

### <プーチン大統領の「集団的自衛権の行使」の弁明はどれも成り立たない>

元々ウクライナ領である東部地域の「独立」を一方向的に認め、その地域の要請だとして「集団的自衛権」を行使することは、国連憲章違反であり絶対通用するものではありません。

東部地域のロシア民族を守ることを口実として侵略を全土に拡大し、民主的な選挙で選ばれた政権を倒してロシア政府の言いなりになる政権を樹立させようとすることは絶対に許してはなりません。



2022. 2. 17(木)スタンディング「平和憲法を、未来へ」の新横断幕 辻堂駅北口コンコース

### <署名活動に参加したのは、Oさんの訴えに

#### 心動かされたから> 辻堂文化9条の会

2月12日 辻堂文化9条の会として、署名どう進めていくかで話し合いを持ちました。街頭署名も計画しながら、戸別訪問してみようということになりました。9条ニュースを投函していても会うこともなく、どんな方に読まれているのか知りたいということ。辻堂文化ニュース、9条ニュースを投函しているお宅を2~3人で訪問して、署名をお願いすることになりました。ともかくやってみましょうと、元町地域に詳しいIさんを案内人として3人で開始です。暖かな日で、久しぶりにお会いする方とはお互いの健康を喜び、労をねぎらわれ、順調に行きました。以前辻堂地域には「藤沢子どもを守る会」「辻堂団地保育の会」とか様々な運動団体がありました。話の中で、相手の方から、保育の会？、子どもを守る会だったかしらなどと話が出てくるのです。懐かしい話をしながら、ニュース投函することになったり、辻堂文化の集まりに参加することになったりと、うれしい報告もあります。

地域活動をしているIさんの実力は圧倒的で、近間で14軒、少し遠くで9軒訪問しました。そのIさん 署名活動に参加したのは、Oさんが訴えた9条改憲の危機感、切迫感に心動かされたからだそうです。Oさん曰く「なんとうれしいことを、Iさんからそんな言葉を聞くとは・・・」こんなこともありました。

### 「今こそ9条の大切さを」

江ノ電沿線9条の会 折原 美知子

高田健氏がキックオフ宣言をした日に始めた署名活動は5年目になった。好意的な人・喧嘩ごしの人・延々と持論をいう人・私たちおばさんに代わって大声で若者を呼び集めてくれた青年など、様々な人との出逢いをエピソード集2冊にまとめて出したりもした。でも、2500筆を送付した2年前頃から通る人の反応が鈍くなっていた。空しい日もあったが、目に触れるだけでも気が付いて貰えるかもしれない、との思いでプラカードを掲げて続けてきた。コロナ禍による休止も余儀なくされた。しかし、今、「戦争なんて起きないよ」と平然としていた人の心にウクライナのニュースはかなりの衝撃をもって響いていることを実感する。1時間で10筆から15筆の署名が集まる日もある。今こそ『子ども達の未来のために』『戦争だけは絶対ダメ』という私たちの会員みんなの思いを伝えていくべき時である。バギーの子ども達の将来が戦争に脅かされるかもしれないということをもママたちにも分かって欲しい。勇気を出して声を挙げて欲しい、大人の責任として。



## 「安保法制違憲訴訟」(横浜地裁)について<2022・3・17>

「かながわの会」・サポーター 西川 幾之進

### はじめに

去る3月17日(木)、安全保障関連法は「違憲」等とした訴訟事案について「・・・請求棄却」の判決が。現在各地域での判決(敗訴)が多いなか横浜地裁では、原告側証人として有名な宮崎元内閣法制局長官等などの有力証言もあり「憲法違反」の正面からの判決がくだされるものとかすかな期待もあった。

私は、この歴史的な判決(午前11時頃)は抽選漏れで傍聴叶わず(傍聴席枠16名)。午後1時30分過ぎの「報告集会(横浜 YWCA)」まで待機。裁判所の判決文(200

頁余)とその要旨(A4・12頁)を弁護団の皆様への要旨増し刷りの懸命な事務作業もあり確定情報を得たのは約2時間30分後。

私の「行動・活動」の原点は、2014年7月の安倍内閣の「集団的自衛権の閣議決定」にある。以後、様々な戦争法等が十分な国会審議もなく「強行採決」の繰り返し。民主主義を崩壊させたこの内閣の理不尽さの典型は、「モリ、カケ、サクラ問題」に全て収斂される。また、外交面では、米国偏重、嫌韓、嫌中路線、プーチンにのみ懇意を示す異様な「露外交」は破綻<sup>じらい</sup>。爾来、約8年間「国会デモ(10万人)」等々に参加。ささやかな努力を重ねて来た。

「ふじさわ・九条の会員」としてこの記念すべき事案概要を纏めるよう依頼があった。私は、少しでもお役に立てばとの思いから私の8年間の拙い総括を含めレポートさせて頂くこととしました。

### 1. 判決・・・<「要旨」ポイント引用>

※原告<421人>一人当たり10万円の国家賠償と自衛隊の一部活動差し止めは認めない。・・・原告らが恐怖や不安等更には個人の尊厳が否定されたとの精神的苦痛については、本件各行為がされたことによって社会通念上受任限度を超えたものとして具体化しているとまでは言えない。人格権侵害はない。

※平和・安全2法<筆者注「平和安全法制整備法」「国際平和支援法」>が違憲かどうかは、国の統治活動の基本に関わる立法の在り方と密接に関連した問題でありその検討は・国会及びその構成員である国会議員に期待される。

現時点において関連2法について違憲かどうかは積極的に憲法判断をすべきということとはできない。

※関連2法については、「存立危機事態」として想定される事態の範囲など、想定 of 文言のみから直ちに明らかとはいえない部分もあり、今後、規定の想定する事態等については相当数の国民の理解ないし共通認識が不十分なまま命令や事実行為が行われ、あるいは、行われる蓋然性が生じれば、決して望ましいこととはいえない。

※・・・改めて関連2法の内容について、行政府による説明や立法府による議論が尽くされ、憲法が採用する立憲民主主義と平和主義の下、広く国民の理解を得て国の安全保障に関連する諸制度が国の平



西川幾之進さん撮影



報告集会 於：横浜 YWCA 2022. 03. 17

(安保法制違憲訴訟かながわの会 HP から)



和と安全を守るために適切に機能する制度として整備されることが望まれる。

## 2. 弁護団声明・・・A4版メモ・簡潔な意見表明

「違憲判断」を強く希求してきた弁護団の先生方には、判決に不本意であることは当然であった。約6年有余に及ぶ活動の成果に対し悔しい想いと、また、原告の皆様の無念の思いも重く、ひしひしと迫る報告集会でもあった。

「安保法制違憲」を含む「三権分立」の司法の正当な機能を期待するのは、法曹界の長年の念願であることから「控訴」の帰結は当然の措置と思われた。しかし、他の地域での判決と相異した「優位性」は、上記最後の段落の下線箇所が指摘されていた。裁判所もギリギリのところ結論（誠意）を示してくれた「証」であるとの評価には納得。

## 3. おわりに

明治維新(1868)から敗戦まで77年<軍事国家>。敗戦(1945)から今日まで77年<平和国家>。2022年は両「77年目」のターニングポイントの年。これから先は再び<軍事国家?>に豹変するのか。歴史は繰り返すのか？

中国、北朝鮮等に囲まれた日本。これらの国々とアメリカとの武力紛争が生じた場合、日米同盟の下、日本がそれに参加すれば真っ先に壊滅的打撃を受けるのは日本の国土でしかない。敵基地攻撃、核共有論等の勇ましい議論を吐く平和とは対極にいる「政治屋」が何の恥じらいもなくマスコミに喧伝されている。

折しもロシアによるウクライナ侵攻は、戦前のわが国の満州等侵攻と全く類似。戦争は泥沼に、最後は日本国の崩壊にいたったことは自明の通り。

「武力で平和は守れない」。平和憲法第9条がブレーキ機能を果たしてきた日本は、2014年以降完全に軍事国家へ変質。「パンとサーカス」に酔いしれている人達。「無関心派」の何と多いことか。低投票率がその証左。

今こそ平和憲法「第9条」を「子や孫に引き継いでいかなければならない」のは、私達、特に、戦後民主主義教育第1期生（1940・生）以降の責務ではないでしょうか！

## <お知らせ>

**ふじさわ・九条の会17周年の集い**  
平和や環境の危機について  
みんなで考えましょう

日時：5月7日(土) 13:30開演  
(13:00開場)

会場：藤沢市民会館小ホール

講師：高田 健さん  
「九条こそ戦争の歯止め」

武本 匡弘さん  
「戦争は最大の環境破壊」

### [講師紹介]

高田健：許すな！憲法改悪・市民連絡会事務局長、  
九条の会事務局、「市民連合」呼びかけ人  
武本匡弘：エコストアー・パパラギ開設者、  
NPO 法人気候危機対策ネットワーク代表、  
日本サンゴ礁学会会員

**「九条改憲NO」**  
**全県一斉行動のお知らせ**  
改憲阻止とロシア軍の撤退を求めて  
県内で一斉に行動します。

藤沢での行動  
4月9日(土) 11:00～12:00  
藤沢駅北ロサンパール広場  
(雨天の場合は南口1階)  
チラシやポスターはこちらで用意します

### ☆☆☆ お礼とお願い ☆☆☆

1月発行のニュースに同封したカンパと「憲法改悪を許さない全国署名」へのご協力、ありがとうございました。ただ署名の戻りがはかばかしくありません。ご本人のみの1筆でも構いません。1筆ずつの積み重ねが大きな力となりますのでぜひ返送していただくようよろしくお願いいたします。

# 私はラストアンカーではありません

## 第五福竜丸展示館フィールドワークに寄せて

神奈川県歴史教育者協議会 長塚淑江

3月前半は「忘れてはいけない日」がたくさんある。1日は1954年のビキニ事件、1919年の韓国の独立運動、2日は今年ロシアによるウクライナ侵攻に対する141か国によるロシア非難決議のあった日、7日は2021年大石又七さんが亡くなった日、8日は国際女性デー、10日は1945年の東京大空襲、11日は2011年の東日本大震災・福島原発事故。

私たち歴教協(\*)は久しぶりのフィールドワークを実施した。場所は東京夢の島にある「第五福竜丸展示館」だ。参加者は約40名、年代も10代から70代までと幅広かった。

(\*)歴教協は歴史教育者協議会の略称。1949年に設立された歴史教育・社会科教育について考える研究団体

展示館ではまず学芸員の市田真理さんから、元乗組員の大石又七さんや福竜丸がどのように被ばくしたのかの話をお聞き、DVDを視聴した。その中で大石さんが語っていたことの意味は大きい。



市田学芸員の話をお聴く

「ビキニの水爆実験は現在も大きく意味を広げている事件だ」ということだ。アメリカと日本政府はビキニ事件を年内に収束させてしまおうと、賠償金ではなく「見舞金」として被害総額のわずか四分の一程度のお金を第五福竜丸乗組員などに渡して、政治決着を図ったのだ。その裏には核の平和利用として「原子力発電」を日本に導入しようという日米の取引があったから。

この構図はその後今も続いているように思える。ロシアによるウクライナ侵攻が行われ、チェルノブイリ他原発への爆撃等もされているにもかかわらず、「核抑止力」としてアメリカと共に、ということに言及している人たちがいる。ただでさえ爆撃によって多くの市民が亡くなり、怪我をし、家を壊され、避難を余儀なくされているのに。

学生・教員・元教員・市民などの参加者の半数は、展示館に初めて来た人たちだったが、学芸員の話をお聴いたことで学びもより深まったようだ。被ばくしたのが第五福竜丸だけではなくて千隻近くの船だったことや、会社員の新聞への投書が保存の大きなきっかけになったこと、など。「社会科は暗記というのではなく大石さんらのことを伝えていきたい」という大学生もいた。



展示館外で、久保山愛吉さんの言葉「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」が刻まれた碑を見る

学芸員市田さんの「できることは忘れないこと、自分で考えて自分で伝え続けるということがつなぐということです。私はラストアンカーではありません。」という最後の言葉は私たち全員に投げかけられた課題だ。私たちは核(実験や兵器)の愚かさを伝えていかなければならない。それがヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマを経験した日本の私たちの大切な課題だと思う。

その上で若者とリアルタイムに近い形で経験した者とがともに学んだ今回のフィールドワークはととても価値あるものだった。

※お知らせは5面にあります。